

令和5年度 第3回 函館市（仮称）総合ミュージアムの整備にあたっての基本的な考え方 （たたき台）への意見に関する検討会議 会議録	
開催日時	令和6年2月8日（木）18時30分～20時15分
開催場所	函館市民会館3階大会議室
次第	1 開 会 2 挨拶 3 議 題 （1） 函館市（仮称）総合ミュージアムの整備にあたっての基本的な考え方（たたき台）に対する意見について （2）その他 4 その他 5 閉 会
出席委員	川嶋委員，若山委員，田原委員，黒島委員，小山委員，北山委員， 酒井委員，西田委員，佐藤（安）委員，渡邊委員，坂野委員，高間委員， 田上委員，根本委員，奥平委員，村上委員，中村委員，鈴木委員， 佐藤（秀）委員，山田委員，池田委員，林原委員，太田委員 （出席委員 23名） （欠席：駒野委員，谷口委員，木村委員 3名）
庶務 （事務局）	函館市教育委員会生涯学習部 川村部長，宮田部次長， 加藤歴史文化資源保存活用担当課長，熊谷市立函館博物館長， 長濱生涯学習文化課長，木村文化財課長 歴史文化資源保存活用担当 佐々木主査 市立函館博物館 三浦主査，大矢主査
その他	報道関係者：1名 傍聴者：2名

1 開 会

【歴史文化資源保存活用担当課長】

それでは定刻となりましたので、ただいまより令和5年度第3回函館市（仮称）総合ミュージアムの整備にあたっての基本的な考え方（たたき台）への意見に関する検討会議を開催いたします。

なお、本会議の議事録を作成いたしますので、録音をさせていただいておりますことをご了承願います。

まずは、配付資料の確認をさせていただきます。

「検討会議 次第」,「座席表」,そして本会議の協議,検討の基礎資料となります「(仮称)総合ミュージアムの整備にあたっての基本的な考え方(たたき台)」,「(仮称)総合ミュージアムの整備にあたっての基本的な考え方(たたき台)に対するパブリックコメントおよび各団体からの意見(最終)」,そして,市内中学生・高校生を対象とした「博物館についてのアンケート結果報告書」をお配りしております。

同様の資料につきましては,第1回会議でもお配りしておりますが,今後,会議の際には,ご面倒でもご持参いただけますようご協力お願い申し上げます。

また,委員の皆様の方でタブレット等ご利用でPDFデータご希望の方がいらっしゃいましたら,後ほど担当者へご連絡いただければ,対応させていただきますので,よろしく申し上げます。

それでは,落丁等はありませんでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは,進めてまいります。

開会にあたりまして,本検討会議の座長でございます,公立はこだて未来大学 特命教授 川嶋 稔夫様よりご挨拶を頂戴いたします。

2 挨拶

【川嶋座長】

どうもこんばんは。

天候が暖かくなってみたり,寒くなってみたり,繰り返してなかなか大変な時期なのですけれども,前回1月下旬に5館の視察をしていただきまして,大変ありがとうございました。

5館を視察して函館の文化施設,博物館に係る文化施設を見ていただきまして,それぞれの位置づけを確認されたのではないかと感じております。

また,それに併せてそれぞれの館の重要性の認識ですとか,あるいは実際現地に赴いてみて,それぞれ館の課題のようなものについても認識されたものだと思います。

今日から,具体的な検討に入るわけですが,今日からといいますのは,今日で何か結論を出すという話ではなくて,これから数回にわたって,皆さんと一緒に色々な検討をいただきながら,話し合いを進めてその中で,目的としているのは,市民の意見,いろんな形で市民からの意見,生徒さんですとかそれから,パブリックコメント,市内各団体から意見をいただいておりますので,それらの意見をみながら,それらを反映させながら「たたき台」について検討をしていきたいというふうに思います。

この会議の目的としては,市民的コンセンサスを形成するとありますので,色々な立場からの意見を忌憚なくいただいて,それらの中でお互いの立場を理解しながら,様々な意見をどういうふうに整理していくかということで,この検討会議を進めていきたいと思っておりますのでご協力をよろしくお願いいたします。

【歴史文化資源保存活用担当課長】

川嶋座長ありがとうございました。

本日のご出席いただいております委員の皆様のご状況を報告させていただきます。

今、2名の委員の方が少し遅れて到着されるということでご連絡があります。

欠席の委員の方は3名でございます、本日ご出席の委員の方は、23名となっております。本検討会議設置要綱の規定による委員の過半数を満たしております。

よって、本会議は成立しておりますことをご報告させていただきます。

本日、協議・検討をいただきます議題につきましては、さきほど座長の方から話がありましたとおり、次第のとおりとなっておりますけれども、パブリックコメントや各団体からの意見、そして市内中高校生を対象とした博物館アンケートについて、総論的なご意見や各論的な多岐にわたるご意見をはじめ、様々な意見をいただいた中で相反する意見もあるほか、5館統合に関しましては、賛成と反対の意見がそれぞれございます。

第1回会議でもご案内いたしました、この部分の整理がつかなければ、具体的な整備内容の検討ができないものと考えておりますことから、先日の第2回検討会議にて、実際に各施設をさきほど座長の方からお話ありましたが、ご視察いただいた委員の間で施設の現状の認識共有が図られたことも踏まえまして、本日は委員の皆様より、5館の統合・分散に係る総論の整理に資するご意見をはじめ、多様な意見を頂戴したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、川嶋座長、議事進行のほどよろしくお願いいたします。

3 議題 (1) 函館市(仮称)総合ミュージアムの整備にあたっての基本的な考え方(たき台)に対する意見

【川嶋座長】

それでは、これから、議事に入っていきたいと思うのですが、今日どういう方向で話をしていくかについては、私の方に任されておりますので、今日全体で2時間くらいありますので、三つに分けて進めていきたいと思っております。

最初に前回5館を視察しましたが、それをご覧になって何名か五名か十名になるかわからないですけれども、このくらいの委員の方に伺いたいと思っております。

それで前回の1月の視察の時の印象をしっかりと思い出していただき、意見をいただきたい。

2番目にこれがすごく大事なことなのですが、現状としては、函館市内に今回の検討の対象となっている施設5館あるのですが、これらについて整備が必要なのかどうかについて皆様のご意見を聞きたいと思っております。

場合によっては、整備が必要がないという意見があるかもしれないですけれども、周った感じとしては、色々な問題点を抱えていたことと思っておりますので、それらを確認していきたい。

併せてその前にそれぞれの博物館の特色のようなもの、それを皆さんに伺っていききたいと思います。

これらによって、函館にどんな博物館、どういうふうな文化財資源があるか認識し、現状それらをどのように改善していかなければいけないかという、その課題をまず明らかにしていきたいと思います。

3番目のところで、「たたき台」の中でたたき台に関するパブリックコメントで総論というのがどちらか、全体的な博物館のあり方に関する大枠の議論があります。

総論に関する色々なご意見をいただきたいと思っております。

ですからその中には、パブリックコメントですとか、生徒さんからの意見の中にも、こうした方がいい、あるいは、しない方がいいなど意見が出ております。

これらに関して遠慮なく意見を言っていただきたい。

今日、それについて結論が簡単に出るようなものではないと思いますけれども、皆さんの意見を聞きながら、我々としては、どういうふうに今後判断していくかということを考えていきたいと思っております。

では、最初の話聞かせていただきたいのですが。

【小山委員】

座長すみません。

【川嶋座長】

はい、どうぞ。

【小山委員】

今日の内容についてはわかったのですが、この後のまとめに至るまでにどんなふうに検討を進めてまとめていくのか、そのあたりがちょっと見えてこないと思うのですけれども。

【川嶋座長】

もちろんそういう不安もあるのですが、実際のところ私もこの資料をいただいてそう簡単にはまとまるものではないと認識しております。

まず今日総論について、皆さんからの意見を伺った上で次回以降、例えば機能だとか、それからいくつかの項目がありましたけれども、それらの議論を通じて最後にまとめていければいいと思っております。

私としても皆さんの貴重な話を聞きながら、まとめていきたいと思っております。

【小山委員】

それでは、各団体からの最終の意見、今日は総論の部分について、この後は各論について、いくつかずつにまとめながら検討していくという感じでよろしいでしょうか。

【川嶋座長】

そう思っております。

とりあえず今始めてみなければ先に進まないことがありますので、様子をみますが、進め方につきましては、また皆さんと相談してやりたいと思っておりますけれども、あわてずにゆっくりとコンセンサスの・・

【小山委員】

あわてずにゆっくりは十分伝わってくるのですけれども、次回のときに自分の考えをどの部分について伝えればいいのかという部分があるものですから、「このことについて話し合いましょう」と言われるよりは、少し目途が見えてきた方がいいのかなと感じました。

【川嶋座長】

今日一番最後のところで次の会議についての議論の進め方について皆さんとちょっとご相談させていただきたいと思っております。

それでは、前回の視察の時の印象ですとか、視察した結果、気づいたこと等についてお話を伺いたいと思っております。

皆さんよく行かれる館があると思っております。

よく行かれる館については、改めて気が付いたことを教えていただけるとありがたいですし、また、普段あまりなじみのない館については、その印象ですとか、気づいたこととかそういうようなことを教えていただければいいなと思っております。

それと5館を総合して函館の博物館について気づいたことがあれば、お話をいただければいいなと思うのですが、そういうことで、私の方からあてたい、もしもそういうことでお話をしたい方は挙手をお願いしたいが。

(挙手無し)

それでは、私の方からまず最初に口火を切ってあててよろしいでしょうか。

それでは、学校関係の方をお願いしようと思うのですが、坂野委員いかがでしょうか。

【坂野委員】

私は函館に来て未だ一年経たないので、全部初めて見させていただきました。

その中で郷土資料館は建物自体は大分手直しされていますが、建物自体、歴史あるもので私、工業高校に勤務しており、建築の生徒なんかが巡るのもいいかなと建物自体も価値があるものだと感じました。

あとは、北洋資料館は漁業の関係や小学生が学べるものがあり、駐車場もありいいかなと感じました。

文学館、北方資料館、博物館はどういった都市にもあるという感じで他に特徴的なものは感じなかったのですけれども、銀行の建物を使っているという、そういった建物を使っている自体でもそういう価値があるのかなという目で見ました。

道内いろんなところを転勤して回っていますけれども、展開して、見て歩くという楽しさもあって順繰り回っているいろんな所を見てくるのがいいかなと特に思いました。

ただ、駐車場が無いのが難点かなと感じました。

あと展示の中身については、色々時季とかで考えているということで。

まとまっているのがいいのかなという思いもありますけれども、展開してあっていいのかなという目で見させていただきました。

【川嶋座長】

ありがとうございました。初めて5館周られたということで印象が色々残ったということですね。

それでは、公募委員の林原委員お願いします。

【林原委員】

私は虫の会所属ということで今回委員に公募させていただいたのですが、どちらかという自然史、今回、色々見させていただき、博物館本館の自然史の収蔵物だとか見させていただいたのですが、それだけではなくて、例えば北方民族資料館の地下にある収蔵庫を拝見しましたが、収蔵品というのは例えば企画展の時に差し替える、あるいは研究者が来た時に実際にそれを見ていただいたり、そういう役割もあるものだと思いますが、割と無造作に置いてある、場所の都合ですとかやむを得ないことがあると思うんですけども、例えば昆虫標本ですとか動物標本であれば日光に当たらない場所、それから、湿度を管理する場所、そういうところでしっかり保存すると。

実際に収蔵庫は、今だけではなくて百年も二百年もというスパンで考えていかなければ、そういうものだと思うので、やはり展示だけではなくて収蔵する視点もしっかり持って今後の新しいミュージアムを造るのであれば考えていかなければいけないのかなと。

残念ながら今の施設では、なかなか難しいという状況が目当たりに感じました。

【川嶋座長】

特に収蔵環境は、北方民族と博物館で課題だと感じたということで、ありがとうございました。

あと、どなたか。

【村上委員】

私いいですか。

【川嶋座長】

はい、村上委員どうぞ。

【村上委員】

今ちょうど自然史の話があったのですが、2000年から2010年までの間、私、きしわだ自然資料館という博物館で学芸員をしていました。

自然史資料館ですので、植物の標本を扱ってしまして、函館市の二つしか収蔵庫は見えないのですが、結構ちゃんと整理されているなど印象を持ちました。

全部の博物館を見たわけではないのですが、結構資料の収集したり整理をするという部分で施設としても一杯で受入れが難しいという問題もありますし、皆さん体験

して非常に寒いという問題で施設の課題も、もちろんあるんですけども、学芸員さんかなり頑張っているなと思いました。

一方で教育の方で展示も含めたところですが、それについては、岸和田の博物館ですと3人の学芸員でほぼ毎週イベントがあり、前半に必ず特別展、それは3カ月行う特別展があって、もう少し短い2カ月くらいの企画展が必ずあって、さらに小さい企画展も年間2カ月くらいそれを毎年ずっと回してきたので、施設とかいろんな問題、現場でも言っていたのですが、空いている部屋がない博物館が非常に多くて、難しいと話があったんですけども、学芸員の人数に対して、市民サービスというところでは、ちょっと効率が悪い気がしました。

そこで新しいミュージアムを造るのだったら、施設の面で学芸員が使いやすい、特別展、企画展をまわせるようにそれを外からいろんな人がたくさん来るようになると学芸員自身が専門的な知識がかなり生きるのも、だんだんいいスパイラルを作れば学芸員の手間がそう増えることは無いので、そういう方向性が望ましいのかなと全体的に思いました、以上です。

【川嶋座長】

ありがとうございます。

現状では、博物館の展示スペースもいろんな制約があるんですけど、村上委員がおっしゃったそのへんについては、改善の必要はあるかもしれないと感じました。

今度、歴史関連でどなたかいかがでしょうか。

【小山委員】

歴史関係ではないのですが、感想を。

5館を見て周って表に展示されているもの以外の収蔵品の数の多さ、たぶん質的にも大変貴重なものが多いのだと思います。

そういう意味では、函館は宝の宝庫だなと5館をまわって感じました。

ただ、北洋資料館は別としてバリアフリーですとか、ユニバーサルデザインですとか、それとはちょっと程遠いような感じになっておりましたし、冷暖房施設、湿度の管理という意味では、本当に不十分な所だなと思っております。

そういう意味では、新しいミュージアムが必要だというご意見がわかったのですけれども、点在の良さ、街歩きをしながら函館の歴史だったり、色々な貴重な資料を見て回る、感じていただく、そういう意味での楽しさというのはあるのかなと思いました。

それと同時に先日、北方民族資料館の講座の方にも行ってきたのですけれども、本当に楽しい講座でアイヌ絵についての新たな知識、楽しさを教えていただいたのですけれども、ものすごく寒くてきちんとした研修室が無いので、雰囲気の良いホールでの講座だったのですけれども、函館市民の中でもものすごい学習意欲が高くて、すごい参加人数だったのです。

その方々に対して、研修をして研修をした方が次に博物館のボランティアとして活動したり、それが子供たちへの学習支援を行ったり、人材を育成するという観点では、施設の不十分な所があるのでしょうし、村上さんがおっしゃるように学芸員さんの数だったり、活動をうまく回せるという施設ではないと感じました、以上です。

【川嶋座長】

設備的に特に学習スペースだとか、そういうことをやろうとした場合には、今のところスペースの問題、その環境ということに課題としてあるというお話だったと思います。他にいかがでしょうか。

それでは、もう一人の公募委員の方にお願ひしますか。太田委員どうでしょうか。

【太田委員】

視察は欠席させていただきましたけれども、北方民族資料館、個人的にも行きましたし、短大に勤めておりますが、学生たちを二人ほど連れてサークル活動として行かせていただきました。

その時に感じましたけれども、駐車場が無いのが学生といえども、車を使う人が多いので、大変だなということ。

あとは、私も学芸員の資格を持っておりますけれども、建物に光が入ってくる状態になっておりまして、せっかくの入口の広い部分が大切な資料が出せない状態かなと感じまして、入ってすぐのところに目立つような展示が出来たらなと個人的には思っておりますが、なかなか難しいのかなと想像させていただいております。

ただ、見学に行きました学生たちも初めて来たとか、中学生の時に来たと言っております。また、こういう機会あればと言っておりますので、是非、良い施設が出来たらなと思っているのだからなと感じております、以上です。

【川嶋座長】

ありがとうございます。

北方民族資料館は楽しかったと思いましたが、たしかに今、委員からご指摘がありましたように建物を流用して使った館であるための弱点もたしかにあるということですね。

そのへんは、我々もこの検討の中で色々意見をまとめていく時に認識しておく必要があるなと思ひました。

次に西田委員。

【西田委員】

西田でございます。

私どもとしては、うちの財団で管理させていただいている施設が前回の見学場所のうち三つあるものですから、北方民族資料館、文学館、北洋資料館をうちの財団で管理させていただいております。

それぞれの館、いろんな工夫をしております。例えば北洋資料館、展示はしているのですけれども、イベントを年3回ほど行っており、それは子供たちを相手にして「こういったものがあつたんだよ」「北洋漁業があつたんだよ」ということを広めていくような、そういう工夫したイベントを行っていると、イベントを行うスペースがやはり無いものですから、芸術ホールと併設されておりますので、芸術ホールのギャラリーだとか、リハーサル室を使って行っている。

それから文学館なのですけれども、例えば、朗読の会と音楽を組み合わせたそんなイベントを行ったりしております。

谷村志穂さんの朗読の会ですとイベントを行うスペースが文学館は、やはりありません。

結局どうするかというと公民館でイベントを行う、それから、啄木を中心にやっておりますので、かるた、啄木かるたというものを委員の皆様もご覧になられたと思うのですけれども、あのかるたを取る大会を行っております。

これは、盛岡の啄木記念館との交流を行って、2月の17日にこっちの優勝チームが向こうに行くのですけれども、その大会も財団で開催し、これもまた、うちの財団で管理しているアリーナを借りて大会を行うようなことをしている。

北方民族資料館も話題に出していただき大変ありがたいお話をいただいております、ミュージアムトークがついこの間行われました。

そのほかにもアイヌの紋様、木彫り教室、刺繍の教室、ムックリだとか年間に色々なイベントを行っておりますが、やはりこれも非常にスペースが非常に厳しいということがやはりあるということで、当然、駐車場も無いということで、もし、新しいものが造るのであれば、きっと必要になるのだろうと皆様のお話を聞きながら思っておりました。

ちょっとまとまらない形となりましたけど、以上です。

【川嶋座長】

各館それぞれ、講座のようなものをやろうとしたり、市民との交流をしたりする場が無いということは、現状で課題だと良くわかりました。

それでは、もう一人、奥平委員。

【奥平委員】

小さいときから博物館に行くというのが遠くて、住んでいるところが湯の川地区なのですけれども、どうやって谷地頭まで行くんだということがありまして、もう一つは、かつて、五稜郭に分館があった時代があったのですけれども、あの分館が良かったような気がするんです。

あそこたしか、分館で特別展をやって本館で常設展もやるという動きだったと記憶にあるのですけれども、その機能が今は無い。

そこが函館の博物館の大きな問題なのかなと。

いわゆる常設展しかできない博物館が5個ありますということで、そのままいくと、研修施設としては、これは失格の建物になってしまうというところが、私は問題だと思っております。

本当にこの街に必要なものは何かというと、やはり統合した形での本当に一つまとまった博物館、横がつながっていない、横串の刺せない今の状況ですと、端から端まで見に行くのに二日三日かかってしまうというのは、これは旅行者にとっても、もしくは市民にとっても負担が大きい。

やはりこういったところが思い切って新しいものを造るべきなのかなと私の考えるところでもあります。

ただ、造る場所については、これから皆さんと議論していく必要があるのかなと思うのですけれども、やはり横串刺せないこの状態というのは、分散配置の博物館は他の地域あまりないんですね、こういったものが検討していく必要があるのかなと私は思っております、以上です。

【川嶋座長】

ありがとうございます。

横串を刺した、そういう視点でとらえたというお話でした、他にいかがでしょう。

是非、この機会にいかがでしょうか。

若山委員。

【若山委員】

まず、5つの館を見て一番の問題点は本館なんのですね。

本館は、まずは駐車場が無いだけじゃなくて非常に地理的に不便であるということがあって、やっぱりこれは、人口動態が変わってきた、これはしょうがない。

これは奥平先生も言っていましたが、どうやって来るのだと。

実はウポポイが出来たときにこれは、ウポポイに先行して3年くらい前ですけども、今日いらしてる黒島さんのお父さんがアイヌ協会の会長だった、私の先祖にもアイヌで集められてですね、ウポポイに先行して3、4年前くらい前に運動して空港の近く、約1万5千坪、空港近辺の函館市の土地ももちろん提供できるということだったので、1万5千坪くらいの手当もしたのでですけども、結局、国の予算は全部ウポポイにまわってきたということで、これはご破算になりました。

しかしですね、空いています。空港近辺、一番奥ですけど原野ですから使い道ありません。

だからやろうとすれば、まずは条件があって、観光化するのか、つまり、今後、人口が24万ということは、私ども高校時代の人口から10万減っていますよね。

函館市民の博物館というのが半分あるとしたら、函館に来る人達の博物館みたいな、そうするとホールがあって、発表会ができて広大なスペースがあって、駐車場があって、倉庫も必要になる。

観光客も必要になる。

しかし、あそこの場所は、空港バスに乗って一発来ます。

二つ目に駐車場、無制限とはいませんがかなり停められます。

というようなことで、私は結論としては、博物館協議会としては、博物館の本館を移転するのだと、そのくらいのことをしないと収まらないのではないかと意見が一つあります。

ただ、問題はあの小さい郷土資料館、あれはバスが来て50人、どんと入ってこれ無理なんですよ、溢れてしまいます。

せいぜい、15、6人ずつ入ってもらうしかない。

ですから、あれは置いておいた方がいいんじゃないかと。

二つ目に文学館は、図書館に行って2階の展示室、郷土資料展示室、ほとんど使われていませんけれど、あそこに啄木その他集合できないものかと、文学館をですね、文学館の資料の一部を図書館が整備されていますからね。

それと北洋資料館と北方民族資料館、非常に似たものがあるんですけど、意味がないのだけれど、五稜郭のなかにポンとあるのですが、これはまとめるべきだと、まとめるんだけど、全部本館に持ってくると、これまた、スペースが大変なので常設展はどちらかに例えば北方民族の方に集約するような形で館を運営すべきでないかなと、それで知恵を働かせたらいかがなものかというふうに思っております、以上です。

【川嶋座長】

ありがとうございます。

結構突っ込んだお話でしたけれども、おそらくこの件につきましては、今日の会合の方と今後は色々皆さんとお話をして協議していくのだろうと思います。

さて、結構お話ししたと思いますけれど、渡邊委員いかがでしょうか。

【渡邊委員】

私は啄木の展示を立ち上げてやっておりますので、文学館は良くわかっておりますけれども、この間地震があって建物が文学館と北方民族資料館、入ってみてなかなかいいなと思いますが、例えば海が近いというところで地震、津波があった場合、一番心配なのは文学館と北方民族資料館、そういうことで、どこか安全な場所に造れるならその方がいいかなと思います。

また、今、若山委員がおっしゃったように我々も啄木は図書館でと思っております。

ただ、図書館の2階は展示のスペースが無い、外光は入らないところ、図書館外でどこか探してほしいなと思っております。

【川嶋座長】

具体的な文学館に関わってきた立場からのご意見ありがとうございました。

他いかがでしょうか。

全体として今出てこなかった中で北洋資料館に関して、ちょっと展示が前の世紀の終わり頃で止まってしまっていて、例えば個人的に思いましたけれども、全体的な点からすると大きな社会的な課題を抱えている分野なのにその点に力を入れられないというのは、教育上のちょっとまだやるべきことがあるだろうと、そういうところに力を入れるならどうしたらいいか、それから、やはり最近の新しいものを収集する機能が本館にあるだろうか、その辺が今後、新しいミュージアムを造るときの一つの論点になるかなと思っております。

さて、今まで7人くらいの方からお話を聞かせていただいたと思うのですが、次に他の方々も同じようなご意見を同じような分野に關していただく機会がありますし、是非、準備して置いていただくとありがたいと思います。

何せこれだけの人数ですので、毎回全員に当たることが難しいんですけども、半分くらいの方には必ず意見を伺うことになると思いますので、挙手をお願いしたいと思います。

今日、2番目の議論が先ほど見てきた5館を踏まえまして、函館における5館に代表されるような博物館の状況、これらについて整備は必要か、ものすごく強く必要だろうかというところを皆さんの考えを確認しておきたいなと思います。

これは、どういう整理を将来、総合ミュージアム構想の協議会をやるにしても、このところの非常に強い必要性が無ければ、現在において施設を造っていくという話になりませんので、絶対必要なかどうかということについて、皆さんからの意見を伺いたいと思います。

既に先ほどいくつか出てきておりますけれども、その建物に関する事、建物の状況、バリアフリーの状況、アクセスの問題、これらの点についていくつか中心になるかと思っておりますけれども、博物館環境についてどういうふうに改善しなきゃいけないのか、もの

すごく必要性が高いのかどうか、そういうところについて、皆さんの意見を伺っていきたいと思います。

ということで、根本委員お願いします。

【根本委員】

環境という座長さんのお話の中の意味、広い範囲なので、どういう環境を指しているのか、具体的にイメージも見ないですけども、多分、皆さんの意見書を読むと物理的な環境が一番多かったと思うんですね。

それは、今までの話でもあったように空調の問題とか、それが一番大きいのですが、あと特に光の問題ですとか、それは確かに大切なことなわけですけれども、現在の建築レベルからいうとそのことというのは、多分、間違いは起こらないですね、こういうこと言って当たってるかどうか、当たり前のことなんで、福祉的な意味合いもそうですね。

そういう面で物理的な物に対する環境整備というのは、僕は信じていいんだと思うんですね、全体的な意味として。

それ以外の環境の問題に対して、一つには、一番この検討委員会の最大の主な提起、施設の環境をどうするか、施設の集約型にするのか、分散型で楽しむ形の今までの形を踏襲するのかということを考えていく環境一つありますし、さきほど、若山委員からあったようにその場所です。

どこに設置するかという環境の問題、これもすごく大きな問題だと思います。

これを読んだら場所に関しても西部地区、駅前、多様な意見があって、若山さんから空港の近くだ、すごい斬新で考えたことなかったのちょっと驚きましたけど。

もう一つすごく大事だと思うんですけども、博物館を支える学芸員さんですね、専門職の環境整備というのが函館市の中でどういう整理をされているのかなという問題があると思うんですね。

一つには、僕が最初、函館市にお世話になった時には、郷土資料館の学芸員で入ってくる、それは、学芸員の専攻だったからですね、学芸員として採用。

でも今、その選考採用ありませんので、たぶん今、学芸員の方というのは、一般職でそうした時に行政側としていろんなことを考えた時にずっとここにいるわけじゃないから、一番仕事の要になる学芸員が誰が持続可能なものになっていくのか、すごく曖昧になっていく。

そういう学芸員の環境があります。

それと一番言われているのは、担い手づくりの環境です。

つまり、市民協働というか、市民参加、これをいかに作っていくかという環境、その環境に対して、このたたき台では、ほとんど触れられていなかったと思うんですね。

ちょっと紹介したいんですけども、最近読んだ本の中でこういうことが言われていました。

あるものが終わりにですけども、従来の物と知識の保管庫としてのミュージアムの機能だけでは、ミュージアムが社会の共通財産であるということを多くの人々が認識できません。

21世紀の社会でミュージアムを機能させるには、民主的な人々の関わりの仕組みとコミュニケーションデザインが必須です。

多様な人が繋がることのできるコンテンツや公平な文化活動への参加の機会、そして、

ウェルビーイングの考え方を重視した人が幸せになるための公的機関としてのミュージアムが求められています。

最近のいろんな専門書の中で驚くんですけども、このウェルビーイング、いろんな訳し方があるんですけども、幸せとの関係性、これまで博物館の中で議論されてこなかった。

そういう環境、博物館が提供する環境そのものも大きく変わってきたことを皆さんにちょっと知っていただきたいなと思います。

それはどうしてか、今回のこの会議で一つ注意しなきゃいけないなと思うのが、これまでは博物館を僕を含めて反省しているんですけど、中高生のものを読んだら高校生のある人がいないと書いてある。

そして最近の本の中で博物館って地域によっては無いも同然だと。

もう一つ社会からの期待性の低さ。

僕やっぱり自己反省含めて、函館の博物館のなかでこの言葉をしっかり意識しなきゃいけないと思いますね。

市民から求められる環境の調整をしてこなかった。

ですから、いろんなハード面の環境づくりということも大事だけれど、市民との関係性、そういう環境づくりをどうしたらいいのかなと皆さんと一緒に議論出来たらいいのかなと。ちょっと長くなりましたが。

【川嶋座長】

あの整理しますとハード面での環境づくりは言うまでもないということですね。

そのうえで社会機能としての市民との関わり合いですとか、そういうことでの環境整備を建物以上に重要だと。

多分この会議の中でそこのところは取りまとめていくうえで重要なことですし、また、社会基盤のことはこれから我々話をしていければいいかなと思います。

それでは、山田委員お願いします。

【山田委員】

環境問題ですね。

私この会議出席した時から思っているんですけども、ミュージアムを造るという前提にたって会議を開いているのか、あるいは、造るか造らないかははっきりしなかったのですが、まず、造るということで考えた場合、5つの博物館を一か所にまとめるということは、大変、至難の業だと感じるんですね。

そして、そこに5つの博物館から資料を入れて、駐車場もありますし、入園料的なものもありましょうけれども、じゃあ函館のどこにあるのだと基本的なところがある程度煮詰まっているのかどうかということを知らないんです。

今話をずっと聞いてますけれども、半分しか聞き取っていない。

というのは、言ってることが分からないのではなくて、私の耳が遠いからなんですけれども、マイクの音がどうも入ってこないんです。

そういうふうなことで、話をしてもトンチンカンなことになるのではと思って遠慮してたんですけども、色々と考えられますけど。

まず函館市民に馴染んでもらうというのかね、私も今回5か所歩きましたけど1回は行きますけど、2回行くことはほとんど無いです。

そういうことで、市民がやはり年に何回か行けるようなことを考える、そういう環境だとかをやっていかなければならないし、観光客にとっても行きやすい、飛行場のそばという話がありましたけども、ちょっと市民の側から考えてみればというのもありますし、そういうふうなたくさんの方の意見、今日もらいましたけども、これらを皆さん、エライことだなとつくづく感じられます、以上です。

【川嶋座長】

ありがとうございました。
池田委員いかがでしょうか

【池田委員】

北海道国際交流センターの池田です。

毎年、アメリカから学生が来て行くのが、北方民族資料館、近いからというものあるんですけども、彼らは世界の博物館を見ているので、そこに大きな違いを感じている、それはそれでしっかりと楽しめるんですけども、スケール感が大分違うなど感想を聞いて感じております。

あと、函館は観光資源が色々揃っているんで例えば行くのが函館山だったり、五稜郭だったり行って、さらに博物館に行く時間が観光客にあるのか、もしかするとあまり観光資源が無いところは、博物館に行ってたっぷり時間とってもう1箇所くらいというのはあると思いますし、函館の修学旅行だと岩手県あたり修学旅行に行って、例えば岩手県博物館を見て、他の所行くとかある程度組み立てができると思うのですが、函館はそれに比べると函館は観光資源がたくさんあるので、ちょっと博物館を見る機会が少ないじゃないかなと気がします。

【川嶋座長】

今の意見について何か補足する方いらっしゃいませんか。

【根本委員】

スケール感の違いということについて、集約型か分散型と関連するんですけども、僕も若い時にヨーロッパとアメリカと見学してスミソニアン分散型というか、見学したんですけども、すごく一つ一つが大きくて見ごたえがあって、いろんな面で池田さんが言ったようにスケール感の違いを感じました。

こういう言い方をすれば誤解を招くかもしれませんが、一つの館のある程度の情報量が必要だなと、ですから、北方とか文学館とか一つのテーマに沿って作られていて、歩く、楽しいそうだなと思うんですけども、観光客の人は一つ一つ、これが博物館かという認識でとらえた時にやっぱり何となく物足りない。

そういうスケール感というのは、一般向けの博物館としても、やはりちょっと厳しいのかなと個人的に思っていました。

【川嶋座長】

それでは、今までのお話を伺っていてどちらかという社会的な機能と言いますか、そちらの方に関する不足というのが話題としてちょっと多かったんですけども、例えば寒いですとか、それから、バリアフリーでないとか、それから資料に光が当たってしまうという点に関しては、もう言うまでもなく必要なことですし、津波に対する対策というのは、これはもう是非ともやらなければならない対策であるということで、皆さんそういうふうな認識だと捉えてよろしいでしょうか。

（「よろしい」の声あり）

そこは、もう最低限この会議の中では、絶対にそのことは進めてくださいという結論になることだと思います。

社会的な機能もこれは今回の議論の中で一つの総合ミュージアム、あるいは、ミュージアム環境の整備としていくのであれば、すぐにでも始めてほしいと思います。

建物ができなくてもできることが、いろんな点で指摘されているというのは、この資料を読んでわかるのですけれども、そういうことについては、函館市としても認識していただけるとありがたいなと思いました。

【根本委員】

渡邊さんの方から災害時に対しての話がありましたけども、博物館界の中で最近、この10年間、やはり東日本のことが大きいんですけども、一番の大きなテーマは災害の関係についての問題がすごく、いろんな角度、保存の問題、修復の問題も含めて、その立地の問題も含めて、やはり災害に対するということは大きな論点だったと思うんです。

【川嶋座長】

ありがとうございます。

我々にとっても極最近もありましたし、常日頃気にして置かないといけないと思います。

いろいろな意見を伺ったんですけども、函館における博物館の環境といったので、ハード面とソフト面、社会的なソフト面ということについて、色々なご意見が出てきたなと思います。

特にハードウェアに対する課題というのは、非常に急いで対策を立てていかなければいけない、それについては、全体で確認したと認識しております。

今日、3番目、だいたいほぼ8時くらいまでに終了するように言われておりますけれども、今まで色々な意見を伺ってきましたけども、今回、総論に関することについて、もう少し、皆さんの意見を伺っていきたいと思います。

たたき台に関する市民、あるいはパブリックコメントの内容の中で総論についてまとめられている部分について、色々な意見がありました。

例えばパブリックコメントのあたりは、総論的に海洋関係のあたりはこれは、別にした方がいいじゃないかと、そういう意見がありました。

それから、博物館関係のところではですね、市民が楽しめるような、それから、雰囲気明るくなるようにして欲しいというような意見があり、それからですね、今展示しているものの他に例えば芸術だとか音楽とかに関する、いわゆる創作活動が扱えるようなものがあったもいいじゃないかというのがありました。

それから、学校関係ではですね、博物館と教育機関が交流しながら場合によっては、展示をしたりするのもいいのではないかと展示まで教育の中でやるというのがいいじゃないかと、それから、美術館ともう少し連携を取っていくようなものもいいのではないかと、それから、場所の雰囲気としては、蔦屋書店のようなイメージがいいんじゃないかという意見があったり、あるいは、亀田交流プラザのような雰囲気がいいんじゃないかというような意見もありました。

それから中に歴史的建造物を体験して学ぶような何かがあった方がいいじゃないか、体験学習に関する事、建物に関しましては、集約した方がいいという意見と現状にプラスアルファするくらいで十分じゃないかという多様な意見がありました。

それから福祉関係のところではですね、今までも出てきました駐車場の問題、これは必然だと思えますけども他に何度も足を運ぶような施設ではない、先ほど委員の方からそういう意見もありましたけども、そういう面を改善するにはどうしたらいいか、それから、展示内容の更新、展示替えの頻度がもう少し高い方がいいとか、経済界の方から総合化するのがいい、賛成だとありましたし、観光関係ではですね、逆にテーマごとに散在するのがいいとの意見も書かれていました。

集約が難しいような館もあるのではないかというようなものもあり、あとは、まちづくり関係では、多様性だとか共生だとか人権だとかそういうようなのが根底にあるだろうしということの資料が必要なのではないかと、あるいは、函館市が行っている市史編纂に関する機能が博物館に必要なのではないかというような意見が大体総論のところになっております。

こういうような多様な意見があったんですけども、今お話ししたようなことに関して、基本的には点在する形がいいのか、統合がいいのか、その点について皆さんから遠慮なく考えをお聞かせいただければというふうに思います。

立場によってそれぞれ良いところも悪いところも出てくると思いますので、それらのコンセンサスを図っていくというのがこの会議の役目ですので、遠慮なくご意見いただけるとありがたいと思います。

どなたか、最初に。それでは学校関係で小学校長会 高間委員お願いします。

【高間委員】

色々アンケートも中学生と高校生を対象としているということで、小学生は特にアンケートはないですけども、小学校長会としても昨年あたりから、事務局を中心にこの意見について少し出させていただいたということで、その時とまた状況が変わっておりますので、今、私が小学校の子供たちを目の前に考えるときに言えることは、3年生ぐらいになると地域学習、社会科を中心に故郷学習をするので、勉強するんですよ。

その時に縄文文化交流センターは、市の予算を使ってバスで行くとそういったところは充実していますけれども、他のところに社会科見学に行こうかということになると若干、しぼんでしまう、予算とかバス借りるとかバス代上がってきておりますけども。

中学年3、4年生が地域学習のウェブ上で見えるように設定されてますし、子供たちも端末を持っていますので、そういったところで学習。

なので、郷土資料館なんかも結構調べたりするのが3年生、5年生になると宿泊研修等でふるる函館に宿泊をする学校が多いので西部地区を散策します。

なのでそういった時にここに行けばすべてがわかるというような状態よりは、公会堂見たり、イギリス領事館見たり、様々なところ回ったなかで、文学館だとか北方民族資料館とかそういったところを回っていくコースを組んで進めていくので、逆に今くらいの距離感の配置がすごくありがたい状態でございます。

ただ、博物館を先生方の郷土研修によって春先の桜を見に函館公園に行ったときにちょっと上がっていったり、そして、色々な手配を過去あったようには思いますし、五稜郭公園で遠足のコースになっているときには、雨が降ったら北洋資料館に行こうかというようなことがあったりしたことで、分散は分散なりに他のプログラムの兼ね合いで組み合わせると効果的に時間を使えるということがあります。

ただ、集合型にすると学校の場合は、やはり大人数となるので説明が分かりやすかったり、小学生向けの展示があったりとか、説明が班に分かれてできるようなちょっと自由度があるような、いわゆる5、6人くらいのグループで回っても学びが深まるようなまい展示の方法とか、それから触れて触ってみるというのも大事なので体験できるようなスペースであったりとか、それから、修学旅行なんかそうなんですけども、悩むのはいつも食事の場所ですね、だからちゃんとお弁当というよりは、どちらかというとかツカレーが提供されるようなところがあるとそこを中心に結構2時間くらい滞在したりもしますので、そういういろんなことはありますけども、だから集合型がいいとか点在がいいとか意見をまとめるには、ちょっとまだ、私としては判断できない、以上です。

【川嶋座長】

ありがとうございます。

中学校の場合はどうでしょうか。

【田上委員】

中学校の田上です。

中学校目線でアンケート調査を見て、5館のことを知っているという生徒が予想以上に少ないというのがあります。

1番と2番のアンケート結果ですけれども、考えると知っていると答えてる生徒は、行ったことがある生徒だということになるんだと思います。

行くということは、保護者が連れていくのか学校で行くのかどっちか二つです。

市民目線でいくとこの二つだと思います。

ただ、現状、点在して子供たちを保護者が駐車場が無いところで連れて行く機会は望めないかなと思います。

学校として行く場合、研修という体験型ということを考えていくと個人的には、横断的に複数がまとまってあるところで、横断的に1日の中で消化できた方が魅力的な研修の機会になるかなというふうに思います。

ただ、歴史的建造物ですとか、観光客が分散してという利点をとるのか、市内の子供たちが教育的な価値を見るのかわからないですけども、子供たちの学校教育で深めていくということを重視すればある程度建物が近くに建てた方が横のつながり、先ほどありましたけど、串ですすね横断的に関連付けて学びができるのかな、そして、学べる研修施設、高校生の子なんかも今、シエスタですとか、亀田交流プラザとか増えてきているのは、くつろげるカフェだったり、くつろげるスペース、語れるスペースがあるという

のが大きな理由かな、なかなか、造っていくのは大変なことだと、費用の面をまったく考えないでしゃべってますけども、そのような感想を持ちました。以上です。

【川嶋座長】

せっかくの機会ですので一点、逆の立場で見学旅行ですとか修学旅行で他所の地域に行くという前提で考えたら、博物館とかこういう環境というのは、点在しているのと集約しているのとどっちが扱いやすいですかね。

【田上委員】

集約している方が。盛岡なんかも近くに博物館もあり盛岡城もあり様々なものがありコンパクトだから盛岡市内の自主研修を選ぶ中学校が多いと思います。

そして、安価で乗り放題のバスがある、それもたくさん回れるということで東北では、盛岡市を選ぶ学校が多いかなと思います。

仙台市を選んでいた学校も以前あったんですけども、仙台はちょっと広いという、また、仙台も安い電車、バスあるんですけども、ちょっと広くて移動の時間がかかるということで、近さとコンパクトさで盛岡ということがあると思います。

【川嶋座長】

それは、例えばそういうのはプログラムとして、まとまった形で提供されているんですか、いろんな観光関係のところから。

【田上委員】

どちらかといえば、各学校が自主研修という形で子供たちがグループでコースを調べ考えながら限られた時間でということで行っております。

【川嶋座長】

函館にとってもそういうような話は非常に参考になる話ではないかと思います。

北山委員。

【北山委員】

私は外の人なんで外の視点から、事業サイドの視点という話があまり無かったのでそのあたりのお話をさせていただきますと、統合するかどうかについては、僕は統合した方がいいかなと思っていて、それはなぜかということですね、私、東京の人間なんですけども、私函館で仕事をしているので東京からかなりいろいろな方、僕の所に来ていただいて北洋資料館が大好きでよく連れて行って、外の人間から見るとかなりの地域資源になっていると思ってます。

ただ、あそこは100円払うと入れる、皆さん私に言うのは、千円払っても全然行きたいと、実は外の人の方がその価値に気づいているのが多いかなと思っていて、各施設の資料関係ですけども、まさに私、西部地区の仕事をしてますけど、函館の地域資源を再現している施設だと思っています。

より価値を最大に生かして発信したり、より付加価値の高い施設かなと私自身は感じています。

なので総合ミュージアムの配慮しなければならない事項に一番大事なこととして④で経済的波及効果をもたらすことで先ほど皆様課題として申し上げていた施設の老朽化だとか、資料の保管だとか、あと雇用が生まれるだとか、そういうことに繋がっていくのかなと思って、そこはそういう視点も入れた方がいいのかなというのが一つ、もう一つは、そういうことをやってらっしゃる事業者さんたくさんいらっしゃるの、民間のノウハウだとか、資本力含めて柔軟に活用してほしいかなというのが一つです。

これはまさに先ほど申し上げてる外の方が結構函館の価値を来てみたり、行ってみるとわかってきていて、そこの我々としてミュージアムの押したい価値はどういうものか、しっかり提起することで外からだったり民間資本と組むことができると私自身は思っていて、そこをしっかりと我々の内からも明確にするとともに民間のノウハウと視点、あと資本をですね活用して出来るだけ活用した施設にしていくというふうに、学識などところちょっとわかりませんが、事業サイドから見た時には、私はそういうふうに思います、以上です。

【川嶋座長】

ありがとうございます。

時間の関係上全員お話を聞くのが難しいですが、田原委員、お願いします。

【田原委員】

いろんなご意見をいただいたんですけれども、実は私、博物館の学芸員、館長だったんですけれども、今回5館全て行って、関わっていない館一つだけあったんです。

文学館であとは全部手をかけておるんです。

自分でやって憶えているので。

ただ、それは統合した方がいいという時にバリアフリーを考えた時に一番の問題だと感じました。

今回たまたま5館のなかでバリアフリーは北洋資料館一つだけ。

施設を全部統合できるかというのが非常に厳しいのかなと思う。

資料等も北洋資料館はちょっと違うだけで、後は全て博物館本館から持ってくる。

収蔵庫の問題を考えた時には、今の状態ではちょっとまずいとは言える。

資料の保存の問題からいうと統合するのはちょっと厳しいかなと思っております。

今回私現役のときにやっていたなかで、ハンズ・オンという触れるというこれが一つ大きなテーマで目の見えない方いらっしゃった時に静かで寒いだけ、ただ、ハンズ・オンにすると最低触れられる、これが全てであるというは無理ですから、そういうのはやっ払いこうということで。

それから、学校の提携、出前博物館、そうすると地域の中で何が必要なのかというのが少しわかってくる。

楽しいと思える博物館にしてもらえるために話かける、だから行ってみよう、そこが博物館にあるんだというのが一つの方法かな。

あとは、逆に統合すると館が空いちゃう、その後どうするんだということもある。

ただそれは、まちぐるみ博物館という函館のですね、西部地区なんか特にそれでいいと思うんです。

そのためには、街案内というかボランティアガイドさんとか、そこと提携していく、できるだけ博物館に引き寄せる、そういう形でいったときに距離感ですとか、それと収蔵するための場所、それで統合した場所となると西部地区になっちゃうんです。

西部地区で統合した保管庫をどうするのという問題、それとバリアフリーはある程度出来上がればいいのですが、問題はバックヤード、駐車場の問題、これが全部解決できるかという結構難しく、それは逆に西部地区はふさわしくないという弱点を持ってるんですね。

それであれば今回どういうふうに考えていくかというのは、必要になってくるのかなと思っています。

そのくらいですかね。

【川嶋座長】

基本的に統合した方がいいと思いがあがるが全館統合は難しいだろうと、それは多分、今お話を伺って建物の大きさの問題もあるし、バックヤード等考えると難しい部分もあるし、あと性格も違うということもあるからということですね。

ありがとうございました。

黒島委員お願いします。

【黒島委員】

函館アイヌ協会の黒島と申します。

学術的とか仕事面でのミュージアムはちょっとわからないんですけども、僕自身10年間くらい東京に住んでいたんで、若い人から見て函館って老後住みたいランキングが高いらしくて、若い人たちはアニメとかSNSとかで有名になったやつを取り入れたら、ここ行ってみたいと思うかもしれないんですけども、あらゆる年代の人達が対象となると西部地区に置くのは広さが問題かなと僕は思います。

飛行場近くに博物館置くのはすごく良いと思うんですけども、他の都市だとかだと路面電車が無いので、路面電車の近くに置くようになればいいんじゃないかなと思っています。

【川嶋座長】

あと何人かですね、酒井委員。

【酒井委員】

末広町で高田屋嘉兵衛資料館を運営しております酒井と申します。

前回ですね5館あらためて見学させていただきました。

この問題、今の博物館ではだめだと限界だということから建て直すということから、どうせやるなら他の博物館ですか、効率化を図るために出てきたと思うんですよ。

この函館の街は、先日新聞にも出ておりましたけれども、人口がどんどん減っておりまして近い将来20万切るんじゃないかと言われておりまして、こじんまりとした街を造っていくしかないわけですが、そういう中でも効率化を図らざるを得ないということです。

統合していった方がいいのかなと、民族資料館それから文学館ですか、この二つは、それぞれのエリアでやっていけると思うんですよね。

問題なのは北洋資料館はちょっとどうかなという感じはあるんですよね。

皆さんの意見を書いたパンフレット、パブリックコメントですか、一番最初に意見に国際水産海洋都市とこれに恥じないような施設が必要ではないかということ、書いてあるんですね。

この意見はちょっと説得力あるなと感じがしましたね。

やっぱり函館は海洋水産という、それを代表する記念館、資料館あっていいのかな、この北洋資料館の他にも私は行ったことがない、知らないんですけども、何か海洋関係の記念館あるんですよね。

だからそれらとの統合ということで、別途考えていった方がいいのかなという気持ちであります。

それから、ちょっと他の人間から色々な意見を言われたのですが、どうも博物館というとなんか窮屈な感じがして気軽に行けるような遊びに行けるようなものにしてくれとそういうふうに言ってくれやと言われたんですけども、例えばどういうことよと、ちょっとしたスペースを造ってですね何か催しができるような例えば、函館の街に関係した映画、結構作られていますよね。

そういうもののポスターとかでいいんですけど、ちょっとこういうものがあつたというものをやってみるとか、音楽関係であるとか、芸術的なものをちょっとした催しとかですね、そういうものでですね気楽に行けるような場所にして、そこから、興味を引くような場所になるようにちょっと考えてもらうように言ってくださいということをおっしゃったので、こういう意見です、終わります。

【川嶋座長】

どうもありがとうございます。

佐藤安浩委員。

【佐藤（安）委員】

私ども道南歴史文化振興財団というところで、函館市から縄文文化交流センターの指定管理を受けてセンターの管理運営をしている団体でございます。

その経験等から私の考えとしましては、整備が必要なのかなと思っております。

その理由といたしましては、私どもセンターは縄文センターそれと隣に世界遺産、垣ノ島遺跡とちょっと離れたところに大船遺跡がございます。

地理的にちょっと離れてはいるんですけども、例えば小学3年生の学習で市内の子供さん方がバスで見学をして学習をしていく、また、他の市町村の修学旅行生だとか大手の学習塾とかいうようなことから、非常にまとまっているという言い方がいいのか別ですけども非常に施設的にそばにあるものですから、非常に子供達の学習ですとか、また、観光の方々も非常に来ていただいていると、ということからやっぱり整備をしたことによってたくさんの方々に来ていただいているということで非常にこう整備した甲斐があつたというふうに思っております。

また、一般の市民の方ですとかそのような方々につきましては、やっぱり足を運ぶということとして考えられることは、やっぱり企画展を行っていくですとか、あと講座何

かを常にやってる、そういうことが非常に選ばれる、来ていただける理由になっているのかなと思っております。

ですから、小さい博物館施設が点在しているのも良いものもあるんでしょうけれども、やはり一箇所にいろんなことが常に行われているような施設というのは、市民ですとか他の町の方々にとって非常に良い施設なのかなと思いますので、解説を行うだとか、資料の保存等を行う学芸員さんの人間的な整備ですとか、また、駐車場ですとか、体験を行うようなスペースそういうようなものが整備された博物館施設というような施設はやはり必要なのではないかなと思います。

ただ、5館がいいのか、3館、2館がいいのか、そのへんはちょっとまだ私もわかりませんけれども、今言ったようなことで整備が必要だと思います、以上です。

【川嶋座長】

整備がもたらす効果というのがある程度あるという、時間の方大丈夫でしょうか。

じゃああと1名伺って、次回今日お話し聞けなかった二人については、最初に質問したいと思います。

それじゃ、木村委員、欠席で、佐藤秀臣委員。

【佐藤（秀）委員】

障がい者団体の佐藤です、よろしくお願いします。

障がい者団体の方から考えると今ユニバーサルデザインというのは、ごくごく当たり前の形でやっているということは良くお聞きしております。

そのうえでバリアフリー法に則て建築を進めていくということがそれで良しとされているところがあるんですけども、以外と法律が古くなっていたり、それから障がいも色んな人たちがいて、その障がいにそれぞれあった建築かどうかということが色々言われておりました。

そういった意味では、施工後ではなくて施工前に色々と障がいを持っている方達に直接いろんな話を聞いてもらえればいかなというふうに思っております。

視覚障がいの人の色々の問題だとか、それからよくこういう話が出ると言われているんですけども、自分達が楽しめるようなそういう展示物ってあるのかいというそういう話ですね。

結局見えないということについては、そこに行って何の楽しみも無いだろうけども、時々触って楽しめる展示会というのがあって、そういったことができるような施設であるとか説明員の配置であるとか、もう一つは聴覚障がいの人達が本当にその内容について把握できるようなよく理解できるような手話通訳であるとか文字通訳であるとかそういったものの配置がとてもいいのかなと思っておりました。

これはもっと先の話になると思っていたんですけども、今日お話がいくつか出た中でこの5館が本当に総合的な建物になってくるのかどうかといういろんな疑問もあって私一番最初に熊谷館長から話を伺ったときに5館が一つになるんだよという、そういったお話ですごいなという思いを持ちながら良いものが出来ればいかなと思っております。

バリアフリーの問題でいくと北洋資料館以外の所で考えると車椅子でそこに訪れるというか、まず不可能なんですね。

そういったことを考えるといろんな話を聞くとじゃあ車椅子の人が来るのかいという話も出るんですけども、そんなことはなくてそういった人達が集まれるような環境を作っていくとそういった人達が集まるんですね。

私もそういった意味では、団体ごとの見学会をしてみたいなとちょっと思ったりもするんです。

そういったものも含めていいものが出来ればいいかなと市民感情として期待をしているところです、以上です。

【川嶋座長】

はい、どうもありがとうございます。

今日2名の方のお話伺えなかったので次回最初の方に色々のご意見伺いたいと思っております。

今日の総論に関する議論、特に館を統合する、分散する、その実現の可能性について議論するような、いくら出てきて我々が検討していく上での情報が少しずつ集まってきたような気がします。

これを基にしてですね次回継続してお話を進めていきたいと思ひますし、その次のこの資料でいいますと2の各論のことに関することになると思ひます。

その点では、根本先生がおっしゃられていたような各館の機能に関することが議論されていくのではないかと思ひますのでそのあたりまで資料をご覧いただけるとありがたいと思ひます。

そういうことで事務局にお返しします。

4 その他

【歴史文化資源保存活用担当課長】

川嶋座長、委員の皆様、大変お疲れ様でございました。

非常に多くの多様な意見、そして総論につながるようなそれぞれの分野、それぞれの委員のお立場の中から随所な意見が出されたものだと思います。

今日、議事録としてしっかりと仕立てたものを皆様の方にお送りさせていただきます。

そして次回、これを見ながらまた議論を進めていただければなと思ひてでございますので、よろしくお願ひいたします。

先ほど座長の方からの提案もございましたとおりの会議、継続審議ということで議決されたというふうに庶務として思ひてございます。

皆様の最後の「その他」に係る部分になってきますが、皆様の委員の任期についてお話をさせていただければなと思ひます。

本年の3月31日までの任期ということで皆様にお願ひをさせていただいておりますが継続審議ということで本検討会議設置要綱にあります1年以内の期間を定めて委員の任期を延長することができるものに適用させていただきまして、また令和6年4月1日から令和7年3月31日までの1年間の引き続きの任期の延長の方をお願ひさせていただきたいなと存じます。

ただ、委員の皆様におかれましてもご異動ですとかご退職での交代が生ずる方もおられると思いますので、手続きに関しましては4月に入りましてから担当の方からご連絡させていただきますのでよろしくお願ひいたします。

手続きの内容は、前回、今回就任される際にさせていただきました手続きと同じものになりますので別途調整させていただければなと思ひます。

本日の日程はこれにて全て終了とさせていただきます。

最後、座長から一言お願ひします。

【川嶋座長】

確認ですけれども次回は年度替わってからということですね。

【歴史文化資源保存活用担当課長】

そうですね、3月の開催が非常に厳しい状況でございますので新年度手続きを進めましてから任期更新して出来るだけ早い時期に再開させていただければなと思ひますのでご協力のほどよろしくお願ひいたします。

座長の方から最後に一言に何か。

【川嶋座長】

久しぶりに座長をしたので、色々不手際なところありましたけども、口もちゃんと回らないですけども、次回以降皆さんの色々なご意見を伺いながらたたき台に関する意見をまとめていきたいと思ひますので、ご協力よろしくお願ひいたします。

【歴史文化資源保存活用担当課長】

はい、ありがとうございます。

これにて本日の日程は全て終了いたしました。

今後とも引き続きどうぞよろしくお願ひいたします。

今日はありがとうございました。